

## アミッシュ族の identity と 文化的価値論

川 久 保      精      祐

米国は言うまでもなく複合的な移住者から成る国だが、今では約9割が英語だけの家庭で育っており（1980年国勢調査資料）、憲法ではうたわれていないが、実質的には英語が共通語であり公用語である。移住民が祖国の言語から離れ英語の単一言語者となって行く過程は、祖国の文化が色薄く変わって行く過程あるいは周辺社会、即ちアメリカという国の中に言語を含めたアイデンティティを築いて行ったに違いない。こうしたアメリカナイズেশョンには、少なくとも三世代はかかった。大人になって入って来た第一世代が祖国の言語と離れられないのは当然であるが、第二世代も多くは父母の文化と米国の狭間において、第三世代になり初めて、第一世代の祖国の言葉や文化とも離れ、アメリカ人としてのアイデンティティを築くと共に英語の単一言語者となっているのが約9割だと判断出来る。

こうした祖父母、両親というように、伝えられて来た言語を含めた伝統や文化と離れていくことにより、英語に一元化してきた為に、アメリカ英語は移住者の祖国の言語の影響が文化・伝統に及んできたと考えられる。勿論170以上もあるといわれる英語以外の言語集団との共通語が必要だった事も大きな理由であろう。つまり、米国は「るつば社会」と言われるが、言語の上では、様々な色が「混り合う」のではなく、英語という「単色」に一元化されて来た事が分かる。その中で、英語を共通語としながらも、異質の文化と伝統を誇りにし、色濃く残している社会集団が存在しているのもアメリカである。そこで、その祖国の文化、伝統を残している言語集団の言語表現の背景にひそむ思考様式・

論理・価値観と言った「文化のレベル」に観点を移して、即ちその集団の共通語・英語を民族語としながらも、民族のアイデンティティを誇りとしている文化の特質を全体観的に比較対照しようと試みてみました。言語論を越えて、あえて比較文化論の領域に踏み込んだのは、「言語に文化がある」という私の言語観からの帰結なのです。言語の文化性を考える時、例えば、日本語の諸相に思いを潜めてみましょう。同一言語・同一民族 (homogeneous) の日本語では、文章表現において英語ほどの論理性・完全性を求めているし、却って不統一の要素を変化の妙として尊ぶ気配もあるように思える。つまり、話し手・書き手は相手に言わなくても分かってもらえるという補完の期待を持っている。私はこの雰囲気外国人には仲々理解出来ない日本人のお察しの文化と言いたい。沢山の西洋文化の中で育った現代の日本の若者でさえ「お察し」の文化で育った親との間に難しい親子関係が生じている現状である。このように日本人が日本の伝統文化を再認識させられるような現象は、言語現象以外に社会的人間関係のルールが変化した事にあろう。それでは、私達が異文化摩擦を回避するにはどうすればよいのか。抽象的概念であるその国の文化というものの全体像を見定めることは難しいが、思考・感情・信仰について、それぞれの文化の一端を発見し、さらに、その地域の人間の行動・言語・身振り・活動を、そして道具・家屋・畑等・生活文化を具体的な文化現象として、つまり表層的な表現から深層にある文化的背景を探り出す作業が望ましいのではないかと私は考える。人は文化を離れて生活することは出来ない事を念頭におき、私は特に多言語、多民族 (heterogeneous) の西欧文化を自然に受け入れて来たアメリカ文化の一端とその文化的価値観を論じてみたいと思います。その中で先ず、信仰の分野である、アミッシュの文化的価値体系を私的視点で明確にし、更に Mennonites 文化とどのように類似し、また異なっているかを、体験的にそして具体的に今回は先ず、次の20項目のうち4項目について基本的問題解決の形式をとりながら、しかも現地の人々の反応を基礎にして論じてみたいと思います。20項目の内容

(1) What is the difference between the Amish and the Mennonites?

- (2) When and how did these people get started?
- (3) Are they a Christian group or do they represent a different religion?
- (4) Aren't they a bit native and backward?  
Why don't they accept modern things?
- (5) Does anyone ever join them? Does anyone ever leave?
- (6) Why do they dress that way?
- (7) Is it true they don't go to war?
- (8) Why are they against education?
- (9) Why are they such good farmers?
- (10) Why don't they pay Social Security taxes?
- (11) Do any of the Amish or Mennonite groups believe in missions?
- (12) What are their weddings like?
- (13) How are their women and children treated?
- (14) Is food a part of their religion?
- (15) Do they go to doctors and hospitals?
- (16) What about burial?
- (17) Don't they beleive in having fun?
- (18) What are some of their problems?
- (19) Are they growing or dying in number?
- (20) What, in fact, holds them together?

第一項では複合民族国家の中での国内共通語の英語を生活の中心としながらも Amish 族の歴史や文化が多様性と流動性のアメリカ社会の中でどのような地位・役割・性格をもっているかを見ていくことにします。

# **(1) What is the difference between the Amish and the Mennonites?**

これはごく単純な問いかけではありますが、この質問に明確な答えを出そうとした人は、それぞれの住民であれ、住民以外のアメリカ国民であれ、これま

でに一人としていない様に私は思う。Amish 族と Mennonites では、どちらが彼らの生活を一つのすっきりしたものに統一したいと思っているのかをまず考えて見たいと思います。当然の事ながら、私の問いかけに対して、彼らの多くが他のアメリカ人を含めて文明社会に生きる私たちの現在の生活様式に皆んな否定的であった。

### (A) The danger of generalizations

Amish 族の暮らしについて語ることはとても困難なことではありますが、2～3 紹介しながら問題点に触れることにします。

異文化に住む人間として、又、日本人として Amish 族について語るつもりはありません。彼らの生活の見たまを述べながら、私論と疑問点を述べることにします。また私的な論述で彼らの生活を紹介することがどんなに危険なとか、またややもすると、それが彼らの生活の全体と誤解を受け御批判を受けるかも知れませんが、あえて、無謀な私論を書くことにします。Amish 族のような、一民族が好奇心と観光客の対象となると、北アメリカの各地に存在する the Mennonites 族も説明に付きなければならない事も忘れてはならない。

世界には、アミッシュ族とメノナイトの集団が多種多様に群がっている。“always” とか “never” のような言葉はメノナイト系のアミッシュ族を語るにはめったに当てはまるものではありません。(彼らの生活は一見保守的なようで、少しずつ変化しているのです。)

○私が話題にしている内容はアミッシュ族に関する。ほんの一部に過ぎないかも知れません。いろんな種類のアミッシュ族がいて、そしてそれらの中には、私たちが知らない信念とか習慣が沢山あるのです。

○私が論じたいことは、不十分ではあるが、何故彼等が世間から自らを隔離したがるのか、出来るだけ特質的な事柄を中心に論じてみたいと思います。

○さてアメリカ英語では、“must”, “seldom” “some” といった言葉を大いに使うが、アミッシュ族はあまり用いないのもその今から述べる特徴的文化に背景があるように思える。

然しあまり単純な見方をすれば人間を動物の集団としてみる事になりかねないので、つまり人の集団というのは、スペクトルと同じである為片寄った意見にならない様注意をしました。Amish 族の目的は出来る限り自分達を世間から隔離するという原則を守っている。外の世界とは無関係でいたいと思っているが、今や観光会社の商売に乘せられて見学に来る為、彼等の文化即ち価値観が犯されようとしている事に不安を感じている。私もその観光客の一人に当たるかも知れませんが、研究の為、ペンシルバニア州・ランカスタ郡に住む色々な Amish 族と Mennonite 集団を訪ねて見ました。急速に変化する外の世界と、その影響を、少しずつではあるが、受けている若い世代の変化に不安を感じている現実を見る時、科学技術に慎重で、現代の生活に否定的である古い世代との間の文化的価値観のギャップはどんな社会集団にもあることがよく分かる。

## (B) Amish 族に関する概説

(1) ほとんどの Mennonite と Amish の集団は歴史的にはルーツは同じである。

彼らの起源は、1525 年、ヨーロッパに於ける宗教改革の時代に、“Anabaptists” と呼ばれる迫害を受けた急進派のキリスト教徒の一つの集団にさかのぼることが出来る。彼等はバイブルの中の初期のキリスト教会に見られるように、簡素な信仰と慣例に戻ることを捜し求めていた。こうして一世紀半後の1693年に Amish 族の隔離が起ったのです。この歴史についての詳細な論述は次にまわして、Mennonite とのかかわり方について最初に述べておきます。

(2) 全ての Amish 族と Mennonite 集団はキリスト教団体である事を先ず念頭において考えるべきです。

彼等のほとんどは、信仰は实际的でなければならない事を強調している。つまり実生活に密着したものでなければならない、としている。

例えば、宗教の為の世間からの隔離をすることによって、つまり現代であれば電気を使わないと決めた宗教的原則によって、テレビ・ラジオを用いた我々

の現代生活の価値観とは異なった価値観を大切にしているのである。彼らは異口同音に「Amish 文化を守る為にも電気を使わない事が原則である。」と言う。自宅には電話がないが、職場にはある。電話による情報伝達は不可欠なものになっている。自宅に電話と電線を引けば、世間から隔離すると言う原則が犯されるからです。お互いに訪問し、対話するのが Amish の文化であり、スポーツであり、彼らのレジャーでもあるのです。ペンシルバニア州に住む15,000人の Amish 族は正に18世紀の生活をしていると言ってよい。

自動車も20世紀初頭に出現していたのですが、「伝統文化が犯されるから、使うのはいいが、所有してはならない。」としている。従って Amish 文化は馬によって、スピードがゆったりしたものであり、Amish の世界に最適である為に馬は競売される。

これらが Amish 文化の「信仰は实际的であらねばならぬ」。つまり、「実生活に密着したものでなければならぬ。」とする宗教の世間からの隔離である。

“By their fruits ye shall know them” (Matthew 7: 20).

従って、生活様式と平和に関する彼らの強調が、数世紀の歴史を通して、Amish 族の大部分を特色づけて来たのである。この詳細については第3節の“Are they a Christian group or do they represent a different religion?”で述べることにして、概説の(3)に進むことにします。

(3) 多種にわたる Amish 族と Mennonite 集団の違いというのは、数十年の歴史の中で言えることは、基本的なキリスト教の教義と言うよりむしろ実生活の違いに、ほとんどいつもあったと思う。Amish 族が实际的であるからと言って、その相異を軽視しているわけではありません。しかし今日に於いてでさえも、もし全家族を調査をすれば、創造と罪のあがない方のキリスト教の教えに関しては殆んど違いが現われないであろうし、又、人がどのように服を着るかとか、会衆（教会の）がどのように決定をするかに関してもほとんど相違を見出すことは難しいであろう。

ところが、勿論違いはあり、例えば the Old Order Amish のいくつかの集団

は家庭で礼拝をするし、教会で礼拝をする人々は the Old Order Mennonites の 7 分身のある礼拝堂とは少し違っている。それは現代的な Mennonite の寺院に似ていてやや新教徒に近いのではなかろうか。具体的には次のようなことが言えよう。

### (C) アミッシュ族とメノナイト派の相違は何か

Amish 族は、Mennonite 集団よりも、もっと世間から隔離することを原則としているが、一方科学技術には大変注意深い、然し電機や機械を使わないと決めている。

例えば、たいていの Old Order Amish は馬車で荷物を運ぶし、質素（農作業・木工業に適した）な服装（服も自分達で作る）をし、電気の使用を禁止し、農業や家業に近い職業に従事し、高等教育を禁止している。

ところで、Amish 族は機械を使わないので、時代遅れだと思っている人々が多いが、彼等は絶対にそうは思っていないし、事実、中に入ってみると、それは間違っているように思われる。彼等は彼ら独特の機械を生活の中で選択して使っているし、また生活をエンジョイしているのです。生活の主は農業で、約50%以上の人が農業だけに従事している。体が弱く農業が無理な人は時計店の様な比較的軽作業に転職するし、その息子も14才になると後を継いでいる。そして14才であっても専門家と同じ技術力を身につけている。製造業では、家具製造業もその一つであるが、木工業の機械を使う力は、電気ではなくて、空気圧で機械を動かしている。万事この様に、それぞれの分野で素晴らしい機械技術を駆使している。

その機械作業では、空気圧を使う分野が非常に多く、しかも電気を使うより経済的であり、公害もなく、ある面では電気文化よりも空気圧を使う機械文化・即ち Amish 文化が進んでいると私は思う。

一方、多くの Mennonite 集団は、Amish 族に比べ、かなり文化的に進行しているし、かなり教化している。彼等は教育や科学技術の機会があれば喜んで

受け入れるし、現代生活が結婚や家族というものに置いている重圧には気が進まないながらも受け入れる。そしてまた彼等は世界的な布教活動を通して、仲間の拡大に努めている。

しかし、この事はごく少数であって、多くのメノナイト達は馬を利用し、又、一頭立ての軽装馬車を使い、教育を避け、布教活動に否定的な人達が多くいる事も知っていなければなりません。

そして又、Amish 族の中にも自動車を運転したり、高等教育を奨励したり、布教活動にたずさわったりする者もいるのは確かです。

従って、次の二つの大きな範疇に多くの集団を分類するほうが、これからの論述を明確にするのに役に立つと判断し、ここに先ず列記しておきます。

1) 彼等が決断を下すのに、主として信仰を共にする仲間意識から手掛りを得る人々。何故ならそれらの人々を“Old Order”(多くの都市部にいる活動的な“Old Order”と呼ばれる小数グループを含めて)と私達は見なし、てよいからである。

もう一つの集団は、

2) 彼らが重要な決断を下す時に、信仰を共にする仲間によりも、世間(Amish の外の世界)にもっと影響を受ける人々。即ち私達はそんな人々を“modern”と見なし、ている。

この二つの範疇である“Old Order”と“modern”は、彼等の家族を明確に述べる際に、“Mennonite”と“Amish”と区別するよりももっと分かり易いと思います。多くの場合、

The Old Order Amish, the Old Order Mennonite, the Old Colony Mennonite, the Hutterites(山小屋生活者)や都市部にいる Mennonite 達の礼拝所は極めて急速に教化を求めて来ている。とは言っても、やはり Mennonite は Amish 集団とは違って、礼拝所については、共有が普通である。



#### (D) 序論のまとめとして

最後にもう一つ述べておきたい事は、Mennonite と Amish の間には、相違点よりはむしろ類似点があるという事です。勿論明らかに多くの違いはあります。特に範囲の広い集団の間では明確である。色々分類出来る Mennonite と Amish 族の中には論述上類似点が多く残っているのも確かです。勿論、それらの集団が組織上は独立していてもである。私が真に論じたいのは、他の民族・即ち私たちとの相違点と類似点の両方を側面から考えることである。

#### (2) When and how did these people get started?

全ての Amish 族と Mennonite 集団は、彼らの精神遺産がキリストと初期のプロテスタントの一派の時代から続いていると言っている。しかしながらこれらの集団が伝えて来ている特徴的な動きというのはスイス北部にある同国最大の都市、チューリッヒで1525年1月21日に始まったとされている。

The Amish 族の起源をもう少し深く知る為に次の三つの集団についてこの第21巻1号では論旨を分かり易くする為に、簡単に述べて、次回の論文で、冒頭にその歴史について更に具体的に調べてみたいと思います。

(A) The Anabaptists

(B) The Mennonites

(C) The Amish

#### (A) The Anabaptists

宗教改革が16世紀のヨーロッパの宗教界に起こった時、聖書のドイツ語訳者であり、ドイツの宗教改革家であり、そしてプロテスタント派の祖とも言われたマーティン・ルーターはローマ教会の教義に反抗して教皇の権威を否定する教派を起こした。

また同じ頃、スイスの宗教改革家であるウルリック、ツウィングリという人

がスイス北部の都市チューリッヒに現われました。この両者は新しい宗教の規律を提唱した。両者共農民の言葉で聖書を説き、神の恩寵と罪の宥赦は信仰によってのみ全ての人に自由に与えられる、としている。この宗教的そして社会的大変動の真ただ中に、自分達を信者仲間だとする一集団が宗教上の団体を作った。彼らは「再洗礼者」を意味する“Anabaptists”というニックネームがつけられたようである。

彼らはローマカトリック教会からと宗教改革者からもひどく迫害を受けるようになった。何故宗教改革者からも迫害を受けたのかと言うと、次の三つの選択権の自由を主張したからである。

- (イ) 教会というのは、強制されない大人達の一つの集団であるべきだとする信仰。
- (ロ) 教会というのは、信仰の宣告をした者に洗礼を施すべきである。
- (ハ) 教会というのは、初期のプロテスタントの一派のように、世間から隔離されるべきである。

又、そのような“Anabaptists”が始まったのは、それはスイスの宗教家、ツィングリの若い急進的な徒弟達がツィングリの主張する宗教改革に失望し、また、幼児を洗礼していることに反対して、ツィングリの唱えからキリスト教の原点に引き戻した頃始まった、とされている。

当時、宗教改革者達は彼らの宗教的大変動後彼らの社会を再組織することに注意を向けていた。つまり、Conrad Grebel, George Blaurock, や Felix Mang などによって率いられたプロテスタントの一派は、純粋な教会を捜し求めていた。それは当時では新しい、急進的な考えであったのですが、国家の支配からの自由であり、いかなる地域からの大人たちの信者にも開かれた自由な宗教でもあったのです。

しかもその運動は急速に広がり、それで、そのプロテスタントの一派は数千人が死刑に処せられたのです。即ち多くの指導者達が数年のうちに殺されていきました。教育を受けた都市部の急進者達の間で始まったこの運動も、やがて地方の農夫の運動になったのです。つまり、信者達は生き残る為に、スイスと、

南ドイツのほら穴や山の中に避難したのです。これが Anabaptists の始まりであるとされている。

### (B) The Mennonites

プロテスタントの一派は指導者のいない集団ではなかったんだが、彼らは全ての信者達の司教を強調しました。どうしてかと言うと、極めて多数にのぼる有能な指導者達が実に速やかに殺されたからです。従って一人として指導者が現われなかったのです。この伝統が今日もその子孫の間で続いているそうである。おそらく一番良く知られた司教は Menno Simons (1492年～1559年) であった。彼はオランダのカトリック教の司教で、この教派の主唱者である。1523年スイスのチューリッヒに起ったキリスト教新教の一派で、幼児洗礼・誓言、公職就任・兵役などに反対する運動に、彼は1536年に加わった。

彼の穏健な指導と豊かな聖書は拡散していた Anabaptists を統一するのに大いに功績が上がったとされている。

そして Anabaptists 達はすぐに “Mennonites” とニックネームがつけられたのである。しかし、Menno はその指導を多くの他の人達と分かち合ったのです。

今日、世界中で40数カ国の民族と言語の Mennonites がいるとされている。その多くがスイス、ドイツ、オランダで初期に始まった系統を引いている。多くの人達は布教を通して仲間に加わったり、自発的に信者を求めたりして今日に至ったのです。

### (C) The Amish

もし人が、教会とは自由意志で仲間と掛け合い、そして、その教会が仲間の信者達の宗規に掛り合う大人たちからなっていると信じているならば、それこそ教会の純粋さが大へん重要になってくる。1693年に、一人の若い、スイスの Mennonite の司教が教会はその純粋さを失いかけていると感じ、彼の仲間と

関係を断ち、新しい宗教仲間をつくりました。

その人物が、Jacob Amman (17世紀のスイス Mennonites 派の司教で Jacob Amen と呼ぶ) であり、彼の信者仲間達は “Amish” (アマン派) と呼ばれた。

私自身はキリスト教徒ではないし、また、宗教に対してそれほど熱心でもないの、全く素人として恥しながら次のような疑問も頭にいだきながらこの事を論じている事をここでもう一度御理解頂き度いと思います。

「もし一人の信者が仲間から破門 (“the ban”) されたとすると、そのとがめというものが、どんなにきびしいものであるのか。」

The Mennonites と the Amish は何度も分裂したようである。ほとんどいつもその関心事は宗教上の純粋さと、宗教上の仲間の信仰のあつさを問題にしていたのです。

今日、たいていの Amish グループは自分達のことを the Mennonites 派の保守的な親類としてとらえている。

しかし、一見保守的なようだが、彼らは絶えず変化しています。私は彼らもまた外の世界に順応性があると思うし、つまり、現在の Amish と21世紀の Amish はまた違うのではないだろうか。

### **(3) Are they a Christian group or do they represent a different religion?**

全ての Mennonites と Amish 集団はキリスト教の信仰と暮らしに専心しているのは確かである。何年もの間、彼らの宗教上の主義と信仰は他のキリスト教徒の主義、信仰と本質的には類似して来た。明らかに、これらの人々は彼ら自身の独特な教理をもち、それを力説して来ている。これによって多くの人が彼らを “sectarian” (分派) と呼ぶようになったし、一方たいていの近代の歴史家達は彼らを “Protestant denomination” として分類しています。

#### **(A) 基本的信条**

民族のかぎとなる信条を要約しようとすることは私にとって大変難しいこと

ですが、少し論述してみたいと思います。序論でも書きましたように、彼らにとって信経と礼拝式は先ず重要ではないと言うことです。事実、何年もの間、彼等の指導者達は聖書にとって代わる信仰告白に対して訓戒をして来たのです。歴史を通じてさまざまな時代に、the Mennonites は信仰の説を明快にし、そして統一する為にも、彼らの言葉で書き留めて来ました。このことは最初その動きが始まってからほんの二年後に起こったのです。再洗礼派 “Anabaptist” の指導者達の集団はスイス村で会合を開き、全員一致でそれを承認し、歴史家達が述べているような統一の精神が “the Anabaptist” 運動を助けたのである。この「兄弟同様の理解」が “the Schleithem Confession of Faith” と時々呼ばれています。

the Mennonites 集団と Amish 族が信じている信条の中に次の内容があります。——

- 1) The one and only God has revealed Himself as existing eternally as Father, Son, and Holy Spirit;
- 2) The Bible is the authoritative word of God, and the New Testament is the fulfillment of the Old Testament;
- 3) God has created and continues to sustain all things;
- 4) Humankind is sinful, needs atonement through the Lord Jesus Christ, and is free to choose or reject salvation by grace through faith (children are in the kingdom of God until they are old enough to decide);
- 5) The church is the visible expression of those who voluntarily commit themselves to a life of holiness and love, open to each other's counsel and discipline;
- 6) Christ will personally return to judge the world, raise the dead, and usher in the glorious future of the kingdom of God.

## (B) 信条の特徴

信条に関しては、それぞれ集団によって異なった特色をもっている。

The “Old Order”, つまり生活と信仰に関しては他の集団よりもっと共同体志向の仲間意識を強調する集団；

一方, The more “modern” groups は信仰の聖書表現の言語を重要視する集団である。

具体的には次のような事が言えると思う。

- 1) 教会と国から離れることに関しては、集団の始まりからずっと現在まで一貫して強く主張して来ている。多くの歴史家達は再洗礼運動を「国家のない自由な最初の教会」とであると論じています。
- 2) 聖書中心主義の生活と信仰が広がっている。再洗礼派教徒たちはローマ教会の伝統と礼拝式の慣例を拒否して、the Word of God, つまり聖書に対する単純な、即ち、肉体的、精神的な努力をあまり必要とせずやさしい服従を強調したのである。この主張が今日これらの集団の間で続いています。
- 3) おそらく教会の教義は、教会の本質と同様にこれらの人々は少しも詳細に論じて来ていないと思われる。教会の本質とは “voluntary, adult, holy, fulltime, caring, disciplined.” であろう。
- 4) 暮らしの中に於ける全てに対する寛大な愛、即ちこの理想の為に、これらの集団のほとんどは何百年の間戦争（いかなる戦争であれ）に参加することを拒否し続けることになったのです。

平和が暮らしの、つまり家族や、教会に属する人達や、隣人や、そして世の中の全ゆる人間の暮らしの根源である。即ち暮らしの根源が「平和」と言う事なのです。

- 5) キリスト教徒が非国教主義と伝統的に呼ばれている世界とは異なっている信仰。その信仰は、ある集団にとっては、特徴的な外観や、特色ある輸送機関の流儀（自動車、電気を使わないことから起こる）を必要としている。又ある集団にとっては、キリスト12使徒の一人が彼の信条を言葉で表

現している事を意味するし、またある集団にとっては、倫理と正義に重点が向けられている。

しかしながら、例外なくこれらの集団は、Jesus が極めて違った取り組みを人間の境遇に紹介したものだとしている事です。彼らはキリスト教徒の門弟である代償とキリスト教徒の共同体の代償を払い度くない、とそうのように考えている多くの人間について次のように述べている。そんな人間というのは悲いことに特別な喜びと願望、期待、予言、祈願などの成就を逸していると確信して生きている。

#### (4) Aren't they a bit native and backward?

##### Why don't they accept modern things?

米国の文化を考える時、欧米文化の十分な理解をしようと思う時、ギリシアとローマの神々や英雄伝説についての知識が不可欠であることは、あらためて言うまでもないのですが、かぎりなく膨大深遠なギリシア神話の網羅的な概説や、個々のエピソードの詳細はここでは述べないで、Amish 文化の価値観を論じる為にも、彼らの人間主義について先ず論じることとします。

言うまでもなく、ギリシア文明の基盤は「理性」にあり、ギリシアの「美」への情熱は、いわゆる耽美的な美の追求ではありません。ギリシアの「美」は「真」、すなわち人間が人間らしく「実在」すること、人間の理想的な資質“nature” が十分に発現されることでした。そしてギリシアの神々は、もとより神々しく美しく善なる存在ですが、しかし常に正しく過つことのない聖人君子ではありません。人間に似せられて造られた神々は、私たちと同じように愛し、憎み、怒り、悲しみ、嫉妬している。それが「美」であり「真」である神々の「実在」である。そして人間はそうした神々の偉大な力と栄光と、狡智と怒意のもとに、それを全宇宙の秩序とみなして (Old Order)、死すべき運命を雄々しく“nature” に逆らわず最後まで生きる事を願っています。この人間と世界(神々)を人間らしい尺度で測ろうとする人間中心の文明が、Amish 文

化であり、「神聖の優位より人間性の解放」の柱となる「人間主義」であろう。Amish 文化の中には、その人間性を鮮やかに印象づけるものがあり、しかしそれはアカデミックな生活ではなく、実践的な生活共同体がある。そうすることが祖先から受け継いだ価値観を重要だと理解することだと考えている。

Amish 族は機械を使わず時代遅れだと思っているアメリカ人が非常に多いのですが、一歩彼らの生活文化に接してみると、それは違います。18世紀の生活の中にも、彼らはその生活の内容に応じて機械というものを選択して使っているのです。この事をもう少し具体的に説明する為にも、ニューヨーク州バッファロー市のカラサンクティアス（「天才」という意味）ハイスクールに勤務していた当時、“field trip”に生徒引率で Amish 族の住んでいるペンシルバニア州ランカスターを訪れ、野外学習させた時の World History Teacher, Mr. Harriman 氏と生徒の会話を再現してみたいと思います。

私たちがエアコンの効いた school bus の中から、仕事をしている（Amish father とその son が二頭の馬に耕作させている）Amish の人達を見ながら現代生活と彼らの生活価値観について論じていたのは次のようなことです。

“It’s so peaceful and beautiful”, says Mr. Harriman.

“But why do they make it so hard on themselves?” one of the students grunts.

“I wish I could live like that,” the other student volunteers.

“No you don’t, Greg. You’d go crazy.”

“But they look so content, Mr. Harriman.”

Harriman 氏は道路わきにスクールバスを止めて、生徒達の下車と見学の許可を求める事にしたのです。

“It may be nice to look at, boys and girls, but we gotta admit it’s a little backward.”

しかし私の体験で知る限りアメリカ人は彼らに直接近づいて、目の前にいる相手に「あなたたちはかなり時代に逆行してますねえ。」と言う人など全く



いません。しかし Harriman 氏のような何百万人ものアメリカ人が the Old Order Amish, the Old Order Mennonites, the Hutterites, the Holdeman Mennonites や他の似たような集団を「時代逆行」だと心の中では思っているようである。しかし, the Amish 自身がそのことを「時代逆行」だと答えるのは, 私たち現代に生きる人間に向って, 実際には何を意味するのであろうか。その点をもう少し生徒達の会話の中にヒントを探ってみました。

現代の発達が蒸気を使い果している時代に, Amish farmer はそんなに “backward” にも “naive” にもはや思えません。the Old Order communities は私達現代生活者に対して彼らの存続出来る正しい選択, つまり世間からの隔離という生活価値観を素晴らしい文化としてひそかな証言をしているように思える。

Is “backward” so bad?

「若し私たちが仮に人生でもっとも大切なもの（こと）を5つリストアップするとすれば, それはどんなものであろうか。」を考える時, 私ならば, 「判断力, チャレンジ精神, 親友又は妻, (食料, 家, 健康などの) 基本的必需品をもつこと, そして最後に「満足と平和」と答えるでしょう。

Mr. Harriman が同じことを生徒に問うています。

“Do you really have a better grip on the essentials of life than the Amish father and his son do?”

“Does the average modern “progressive” American have a more profound sense of fulfillment and meaning than the Amish family?”

“Is community centered Amish education truly inferior to your progressive school?”

“Is the food from the Amish father’s garden less healthy than that from the urban supermarket?”

“Do their horses pollute the earth and the air more than the people we live in using the machine and its unquenchable demand for gasoline,

macadam roads, and parking lots?”

“Will you, boys and girls, inherit a better world than the Amish children?”

当然のことであるが、風俗、習慣は良し悪しの問題ではない。私たちと the Amish の風俗、習慣にみられる根本的な相違は「集団」と「個」の ethos であり、宗教的精神、崇拝である。正に「人間主義」である。この人間と神を人間らしい尺度で測ろうとする人間中心の文化が Amish 文化であり、決して “backward” という言語は彼らに当てはまるものではないことが分かる。風俗、習慣は肌で感じることが何よりも大切である。ことが新めて分かった。

Mr. Harriman は次のようにも語ってくれた；

“If modern Americans are not willing to seriously look at these questions, they will have little hope of ever understanding why the Old Order groups have endured for so many generations — and why are even today growing in number.”

目の前で仕事をしている the Amish father と息子は私に次の事を質問して答えを暗示させてくれた（たいていの Old Order groups は私のような旅人や見知らぬ者にはこんな議論にかまってくれなかったのですが）；

“You say you prefer so-called progress to backwardness. Where will you be when you arrive? Where does this progress take people?”

彼らは空気圧で機械を動かし、ガソリンを使わない、電気を使わず、ある面では経済的で電気文化より進んでいるとも言える。

「進歩が蒸気文化を使い果している」のです。現代人のように、現代の進歩を不公平に処理してはならないのではなかろうか。確かに特に日本では環境破壊も考えずにただひたすらに技術革新、ハイテクノロジーへと “great strides forward” が成されて来ました、勿論私たちは考えることもなしに病気にも半ば無感心にそれらを享受して来ています。

the Amish 族がその進歩というものに絶対的に抵抗しているのではありません。時節それ自体が彼らに変化するものを期待するように気付かせているのです。つまり時機至来すればいつでも彼らの祖先から受け継いだ生活価値観を破らない程度の“change”はあるのです。

しかしながら、資源不足や環境腐敗（環境崩壊）、くずれかけている家族組織、極度の孤独感、いわゆる自由という言葉と高い奨励金に対する侮蔑の時代に彼らの態度は先ず「それら全ての事柄を悪い事であると証明する」ことである、つまり「善なるものをしっかりと見きわめよ」である。先にも述べたように、the Old Order communities は私達現代生活者に対して彼らの存続出来る唯一の文化、つまり世間からの隔離という生活文化の価値を素晴らしい文化としてひそかに証言をしてる。例えば、テレビやラジオになれている人には一般に読書が出来ない（我々はテレビやラジオでたいくつしないからであろう）、彼らにはテレビ、ラジオのないのに慣れているから別の文化を楽しんでいる。つまり私たちの生活文化で価値観を測ることは出来ないという事である。

注目すべき事は北アメリカに住んでいる大多数のメノナイト集団と世界中のメノナイト集団は現在私たちが言っている「現代的」なものを、彼らにとって夢と言えるものの多くを受け入れている。がしかし多くの人達が何らかの形でその夢なる問題に悩まされているのも事実である。そしてまた教会の分裂問題のほとんどが気のおけない現代の進歩の中で、キリスト教徒達はどの位世間から遠く離れて（隔離して）おくべきなのかという問題について議論が集中しているようである。アメリカでは Amish 族に限らず、多くの人達が、木を用いるストーブや庭仕事に戻りつつあるし、家庭ですぐす時間を以前より多くもっているし、また以前より素朴な生活様式に戻りつつある事に私は驚いている。然しまだ沢山の人達が地域社会ぐるみでその事を達成することは、反面個人の便利さを犠牲にするという悩みをかかえている。Amish の社会では自分のなりたい職業につく（彼らの制約の範囲で）ことは出来るが、全員ひとまず農業を学ばねばならないことになっており、個人的な便利さ（現代人の抱えている便利さ）は大して気にならないようである。然し最近農地が手に入らない事が

彼らの新しい悩みである。彼らにとって将来の脅威は、農地が手に入らず他の職業につきお金が出来る事である。お金が出来れば裕福になり（裕福は危険）、便利さを求めて祖先が受けついだ価値観を重要だと思わなくなるからである。だが一方、小規模な家内工業が発展しても脅威ではない。それで最近では地価の安い農地に移り住む Amish 集団が目立って来ている。そして、この共同体に残る若者も50年前より多くなって来ている事に彼らは一つの満足を感じている。

そんな若者の出現は何と言っても親が祖先から受け継いだ価値観をきちんと教える習慣があるからである。例えば、Amish communities の規律、秩序、Amish 外の世界の人たちの害「麻薬」、「離婚」など世俗的害悪についてである。しかし私が一番強調したい事は、彼らは「危険」を恐れると言うより精神的なことを重視しているという事である。Amish 族の生活を見ることは私にとって又、誰にとっても人間と世界のより深い理解を学び得る場を見つける事であり、Amish communities の人間は老齢も病気も不正も知らず、地球を破壊する行為からも離れ、豊かな野には穀物や果物が豊かに実っていました。「美を守る」ことは Amish にとって「正義」であったと理解した時、

“Aren't they a bit native and backward?” という疑問は氷解しました。

一見保守的で時代遅れのようなだが、彼らは絶えず変化しているのも確かです。その事は彼らもまた外の世界に順応性があるからです。従って現在の Amish と21世紀の Amish は少し違ってくるかも知れない。と私は思う。

尚（5）～（20）の問題点、及び具体的な歴史論やルーツについては次回の紀要で論述したいと思います。